

NAS会専用意匠性塗装工法

NTダンネツベース櫛引き仕上げ

OrigINAS工法

(オリジナス工法)

【初版】

簡単な施工で自由な意匠を演出——。
下地に強力に密着し、
優れた遮熱・断熱性を発揮します。

特長

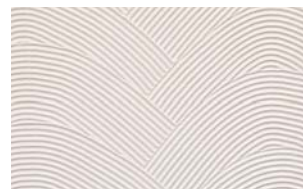
櫛引き仕上げによる多彩な意匠性

OrigINAS工法は、NTダンネツベースを使用した意匠性工法です。
簡単な施工で、オリジナルの意匠をご提案いただけます。

●意匠性のバリエーション例

(櫛ゴテ、櫛ペラ仕上げ)

どんな意匠も自由自在！
多彩なパターンで壁面を演出します。



市販されている工具、パターンローラーやオリジナル工具を用いることができます。また使い方の工夫によってもさまざまな意匠性のバリエーションが考えられます。

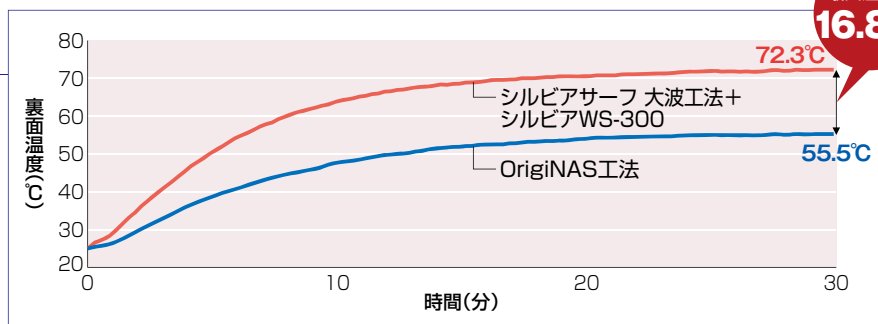
2 高い遮熱・断熱性能

下塗りに断熱塗料の「NTダンネツベース」、上塗りにOrigiNAS工法専用艶消し遮熱塗料の「水性NASトップ遮熱」を使用することで、高い遮熱・断熱効果が得られます。

● 遮熱性能

(室内ランプ照射試験による遮熱性能比較)

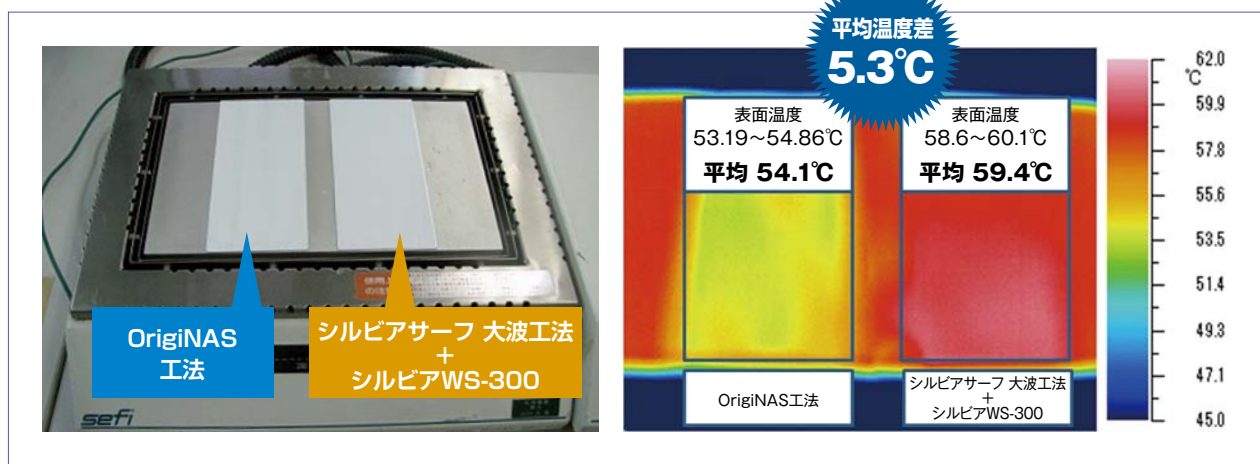
試験用室内ランプを用い、一定の時間照射しスレート板裏面の温度を測定しました。遮熱試験に使用した標準色はR-834です。



● 断熱性能(加熱ヒーター板による断熱性能比較)

温度コントロール可能な加熱ヒーター板に試験板を置き、試験板表面温度を赤外線力メラによって測定しました。

● 設定温度: 65°C ● 塗料膜厚: 2mm ● 基盤: 亜鉛メッキ鋼板 1mm



3 強い密着力

下塗りのNTダンネツベースは、既存塗膜に対して強い密着力を有しています。塗り替え時にプライマーレスでの断熱塗装が可能となり、工期短縮を実現します。

4 環境対応

下塗りから上塗りまで水系タイプのため臭気も少なく、居住者や施工者にも安心してご使用いただけます。

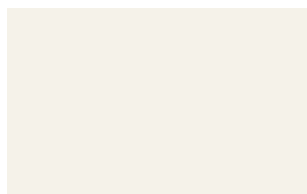
標準色

● 水性NASトップ遮熱は「艶消しのみ」です。

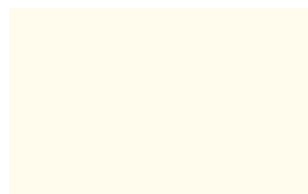
● この色見本は紙に塗装しておりますので、実際の施工の仕上がりとは多少の色違いが生じる場合があります。ご了承ください。



▲R-819



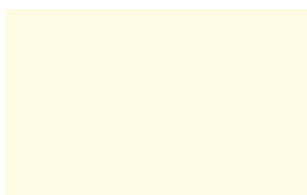
▲R-821



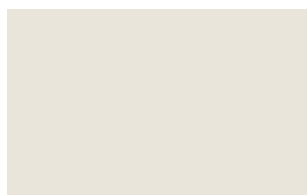
▲R-822



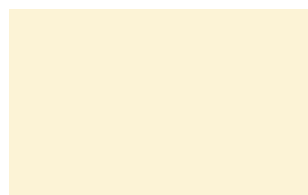
▲R-834



▲R-840



▲R-841



▲R-845



▲R-850(じゅらく色)

● 本色見本帳のPDF版をカラー出力された場合、この色見本帳に掲載しています標準色とは著しく色の相違があります。PDF版のカラー出力やパソコンのモニターをご覧になってのご注文はお受けできません。標準色の指定、選定、ご注文は必ず現物の色見本帳をお願いします。

試験成績表

試験項目	試験結果	試験方法
低温安定性	異常なし	JIS A 6909
付着強さ	標準状態	1.00N/mm ²
	浸水後	0.90N/mm ²
温冷繰り返し	異常なし	JIS A 6909
伸び率	20℃	125%
	-10℃	50%
	浸水後	100%
	加熱後	100%

荷姿

- NTダンネツベース 12kg
- 水性NASTトップ遮熱 16kg
- NT水性カチオンプライマー 15kg

標準施工仕様書

工程	材料の調合	施工方法	使用量	施工間隔
素地調整	<ul style="list-style-type: none"> ●表面の塵、ホコリ、コケや既存塗膜の浮き、ハガレなどは、高圧水洗やワイヤーブラシなどで完全に除去してください。 ●水洗い後は十分に素地を乾燥させてください。 			
下塗り (1~2回)	<ul style="list-style-type: none"> ●NTダンネツベース 12kg ●清水 0~0.36kg 	<ul style="list-style-type: none"> ●中毛ローラー ●砂骨ローラー ●くばりローラー ●刷毛 ●コテ ※1 	0.5~1.0 kg/m ² ※2	16時間以上 72時間以内 (23℃)
中塗り	<ul style="list-style-type: none"> ●NTダンネツベース 12kg ●清水 0~0.36kg 	<ul style="list-style-type: none"> ●くばりローラー ●砂骨ローラー ●刷毛 	0.5~1.5 kg/m ² ※3	直ちに
櫛引き		●櫛引き用工具	—	16時間以上 72時間以内 (23℃)
上塗り (1回目)	<ul style="list-style-type: none"> ●水性NASTトップ遮熱 16kg ●水 0.5~2kg ※ ※ローラー、刷毛塗装 : 0.5~1kg、スプレー塗装 : 1~2kg	<ul style="list-style-type: none"> ●スプレー ●ローラー ●刷毛 	0.12~0.15 kg/m ²	2時間以上 72時間以内 (23℃)
上塗り (2回目)	<ul style="list-style-type: none"> ●水性NASTトップ遮熱 16kg ●水 0.5~2kg ※ ※ローラー、刷毛塗装 : 0.5~1kg、スプレー塗装 : 1~2kg	<ul style="list-style-type: none"> ●スプレー ●ローラー ●刷毛 	0.12~0.15 kg/m ²	—

- ※1 塗料をくばる際、くばりローラーや砂骨ローラーを使用すると作業の短縮になります。その後、中毛ローラーや刷毛、コテなどを用いて仕上げてください。
- ※2 「NTダンネツベース」の使用量は、下地の状態により増減します。
- ※3 「NTダンネツベース」の使用量は、櫛引きのデザインや使用する櫛の形状により増減します。

●注意事項

- 施工にあたっては、カタログ及び、製品ラベルに記載の注意事項をよく読んでご使用ください。
- 上記仕様に記載の数値は、標準的なものであり、素地の状態、形状、施工条件、気象条件などにより、多少の幅が生じます。
- 気温5℃以下、湿度80%以上の施工は避けてください。塗装後24時間以内に降雨、降雪、結露等が予測される場合は施工は避けてください。
- 材料は直射日光を避け、室温5℃以下、30℃以上にならない屋内で保管してください。
- できるだけ皮膚に触れないように取り扱い、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋などの保護具を着用してください。
- 換気を充分に行ない、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 材料の付着した布やウエスなどは、自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 新設時や既存塗膜が激しく劣化している際は、下塗り1回目の工程前に、「NT水性カチオンプライマー」を塗装してください。
- 下地のパターンが残っていると、櫛引き工程後の凹面で跡が残ってしまうことがありますので注意してください。
- 櫛引きの凹凸が大きい場合には、凹部に塗料が塗着しづらい場合があるため、上塗り施工時、塗布むらや塗り残しに注意してください。
- その他に関しては、カタログ記載の注意事項をご参照ください。

●櫛引き作業工程の注意事項

■下塗りの工程

- 下地に凹凸がある場合は、櫛引き工程後まで跡が残る、仕上がり外観に影響することがあります。下地に凹凸がある面は塗布量を多めに塗装し、平滑になるようにしてください。また、スタッコや吹付けタイルなどの凹凸の大きい面の場合は、「NTカチオンファイラー」などの下地調整材を用いて下地を平滑にしてから施工してください。
- 下塗りを中毛ローラーで仕上げた場合、櫛引き工程後の仕上がり外観に交差目ができる事があります。交差目が予想される場合は、下塗りの仕上げ方向と櫛引きの目を合わせると、交差目が目立ちにくくなります。
- 塗料をくばる際、くばりローラーや砂骨ローラーを使用すると作業時間の短縮になります。その後、中毛ローラーや刷毛、コテなどを用いて仕上げてください。
- 入隅、出隅、役物まわりなどは刷毛で塗装してください。

- 新設時や既存塗膜表面のチョーキングが激しい場合には、入念に水洗いをした後、下塗りの工程前に「NT水性カチオンプライマー」を塗装してください。

■中塗り、櫛引きの工程

- 中塗りを塗布した後、直ちに櫛引き用工具を用いて意匠付けを行ってください。
- 外観をそろえたい場合、くばりローラーで櫛引き用塗料を壁面に配る手順(中塗り)と櫛引きをする手順(櫛引き)の作業間隔は1~2㎡程度一定に外観を仕上げながら塗り進めることがポイントです。
- 入隅、出隅、役物まわりなどは刷毛で塗装してください。

■上塗り1回目、2回目の工程

- 櫛引きの凹凸が大きい場合には凹部に塗料が塗着しづらい場合があるため、塗布ムラや塗り残しに注意して塗装してください。

「Originas工法」の施工上の注意事項

● 素地調整について

- ①粗面やALC面、多孔質下地など、下地に問題がある場合は「NTカチオンフィラー」などを使用し、下地調整を行ってください。
- ②表面のチョーキング、ごみ、ほこり、藻類、かび類、レイトランスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは適切な下地処理を行ってください。
- ③高圧水洗ができない場合はホースで水を流しながらブラシなどを使用し、塵やホコリ、かび、藻類を完全に除去してください。

- ④油分が付着している場合は中性洗剤などを使用し、除去してください。
- ⑤錆が発生している場合はワイヤーブラシ、サンドペーパーなどで除去して、金属用のプライマーを施工してください。
- ⑥高圧水洗やエアレススプレー塗装では、施工中のミスト飛散防止の養生を行ってください。

● 塗料と塗装について

- ①仕様書に書かれている数値は標準的なものであり、素地の状態や形状、施工条件、気象条件などにより、多少の幅が生じることがあります。
- ②外壁表面を水洗した後や雨、露、霜で濡れている場合は十分に乾燥させてから塗装してください。
- ③降雨、降雪が予測される場合や気温が5℃以下、湿度80%以上での塗装は避けてください。
- ④塗膜が十分に乾燥しないときに降雨や結露などによる水分の影響を受けた場合、塗膜表面が白化や割れ、シミなどが発生する可能性がありますので水分の影響を受ける場合は施工しないでください。また、乾燥までの時間を考慮して作業を終了してください。
- ⑤結露の発生する恐れのある場所や換気が不十分な場所での施工は避けてください。仕上がり不良、硬化不良などの不具合が発生する可能性があります。
- ⑥塗料は必ず規定の配合比で調査し、十分に攪拌してから施工してください。バールンが塗料液中の上部に分離している場合があります。また、他の塗料との混合は絶対に行わないでください。
- ⑦一度調査した塗料は必ず可使用時間内に使い切るようにしてください。
- ⑧風化面、吸い込みの多い下地の場合は再度、シーラーを増し塗りしてください。
- ⑨下地の種類によっては下塗り塗料の選定が必要です。押し出し成型セメント板やPC板、GRCなどの場合は最寄りの営業所までお問い合わせください。
- ⑩既存塗膜面を剥離した箇所は、なるべく既存塗膜と同一種類の塗料を用い、パターンの復旧を行ってください。
- ⑪既存塗膜の劣化状況によってはシーラーや目荒らしが必要になります。
- ⑫素地の状態は含水率10%以下、pH10以下としてください。
- ⑬塗料の使用量は被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などによって増減する場合があります。
- ⑭シーリング材の劣化などがある場合には打ち替えを行ってください。
- ⑮シーリング面への塗装は塗膜の汚染や剥離、収縮割れが発生する場合がありますので極力行わないでください。やむを得ず使用する場合はシーリング材が完全硬化した後使用してください。
- ⑯シーリング材の上に施工する場合、シーリング材の種類などにより、塗膜が付着しない場合や汚染することがありますのでご注意ください。詳細は最寄りの営業所までお問い合わせください。
- ⑰目地幅、隙間幅が大きい場合や建物やボードの動きの激しい部位のシーリング部への塗装は塗膜が割れる場合がありますので避けてください。
- ⑱塗装方法が混在する場合、塗布量、表面肌が異なることで若干の色相差や光沢差がでることがあります。とくに補修塗りを行なう際、ローラー塗り、刷毛塗りが混在しますので、その場合は同一希釈量で行ない、補修塗りは最小範囲で行ない、目立ちにくくなるように塗装してください。

- ⑲ローラーや刷毛など同一面で塗装方法が異なる場合、使用量や塗装表面状態が異なるため若干色が変わって見えますのでご注意ください。また、ローラー塗りの場合は、ローラーの目により、仕上がりが色相が異なって見えることがあるため、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。
- ⑳気温が5℃以上で塗装は可能としておりますが、気温が低い場合は塗膜の乾燥に時間がかかりますので施工間隔が変わります。
- ㉑規定の塗布量が塗られていない場合、本来の塗膜性能が発揮されない場合がありますので標準塗布量を守って塗装してください。
- ㉒塗り替え塗装で既存塗膜が2液溶剤系フッ素樹脂塗料、2液溶剤系シリコン樹脂塗料、弾性スタッコ、弾性リシン、アクリルトップの場合、既存塗膜がすでに彫れている、また既存塗膜の表面にピンホール(細かな気泡)が生じている場合があります。その上に塗装しますと彫れがさらに大きくなる可能性がありますので、上記の場合は既存塗膜を完全に除去してください(とくに部材が軽量モルタル、ALCパネル、窯業系サイディング、発砲ウレタンなどを使用した断熱工法の外壁の場合は注意が必要です)。
- ㉓窯業系サイディングやALCの場合、下地の影響によっては彫れ、剥離が発生する可能性がありますのでご注意ください。既存塗膜が弾性スタッコの場合は塗膜が彫れますので施工しないでください。なお、金属サイディングには使用できません。
- ㉔塗装器具は使用後に水洗し、速やかにラッカーシンナーなどで洗浄してください。
- ㉕希釈率は試験施工などにより決定し、同一条件で施工してください。ただし、希釈率は色や施工条件により変化しますのでご了承ください。
- ㉖塗装後、塗膜が乾燥するまでに養生テープを剥がしてください。塗膜乾燥後に養生テープを剥がす場合はカッターナイフなどを用いて取り外してください。
- ㉗建物の構造や部位、仕上げ、環境条件などによっては本来の低汚染が発揮されない場合があります。
- ㉘著しく藻やかびの発生しやすい環境下では、防藻、防かび効果が十分に発揮されない場合があります。
- ㉙塗料の過剰希釈は仕上がり不良になることがあります。規定内の希釈量で塗装してください。また、塗料が濃い場合、色相によっては2回塗りでは隠れない場合があります。その場合は塗り回数を増やしてください。
- ㉚材料の保管は直射日光を避け、雨露のあたらない冷暗所に保管してください。
- ㉛開梱後、放置する場合は皮が張らないようにポリエチレンシートなどを用いて密閉してください。開梱後はなるべく早くご使用ください。
- ㉜塗装色より既存塗膜の色が薄い場合、遮熱(温度低減)効果が得られないケースもありますのでご注意ください。また、色相により遮熱効果が変わります。

「Originas工法」取り扱い上の注意事項

(よく読んでご使用ください)

- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行ない、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 取り扱い中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は、直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 容器は、つり上げないでください。止むを得ずつり上げるときには、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください(偏荷重になると取手が外れ、落下する危険性があります)。
- 取り扱い後は、手洗いおよびうがいを充分に行なってください。
- 目に入った場合は、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。

- 誤って飲み込んだ場合は、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 材料が皮膚に付着し、痛みや外観変化があるときは、医師の診察を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 保管は必ずフタをして、直射日光の当たらない場所に保管してください(0℃以下での保管は避けてください)。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中味を使いきってから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 詳細な内容が必要な場合は警告ラベル、または化学物質等安全データシート(MSDS)をご参照ください。

* 製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。

【その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください】



日本特殊塗料株式会社

■ お問い合わせ先

東京営業所	〒114-8584 東京都北区王子5-16-7	☎(03)3913-6203	FAX(03)3913-6323
平塚営業所	〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10	☎(0463)23-2135	FAX(0463)23-3739
名古屋営業所	〒472-0006 愛知県知立市山町東並木12	☎(0566)81-8111	FAX(0566)81-8124
大阪営業所	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-28-10	☎(06)6386-8492	FAX(06)6338-3560
広島営業所	〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13	☎(082)423-8231	FAX(082)423-8256
福岡営業所	〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726	☎(0942)89-5766	FAX(0942)89-5762

● 日本特殊塗料ホームページ <http://www.nttoroyo.co.jp/>

■ 代理店